

震災の記憶を風化させない

今までに何度となく被害をもたらしている地震や津波。

いつ起こるか分からない災害で悲劇を繰り返さないよう、震災の記憶を形に残し、後世に語り継いでいかなければなりません。



宮本英一さん(下永井)
震災の経験を語り継ぐ
活動をしている

伝えたいのは生きるということ

千葉県庁の土木技術者職員のOBで組織されているNPO防災千葉から、津波の経験を聞きたいと要望があり、これをきっかけにNPO防災千葉が主催する出前授業などで、自分の経験を話すようになりました。私は津波で経験したことを孫に伝えなければと、震災直後から文章などで記録に残すようにしていたため、これが役に立ちました。これまでに県内沿岸部の小学校で話をしてきました。

津波を経験して一番反省している点は、大津波警報が出ても、堤防を超える津波は来ないと思って逃げなかったことです。私は昭和35年のチリ津波を経験し、津波が堤防を超えなかった記憶がありました。震災当時も大きな津波は来ないと考え、避難しなかったため津波に流されてしまいました。そのため講演では、堤防を超えた大きな津波が来たこと、津波は何度でも押し寄せることを必ず話すようにしています。講演の最後には、自分が津波に流された経験を基に「どんなことがあっても生きること、生きてみることを第一に考えて、これからの人生を歩んでください」と話しています。



飯岡小で行われた出前授業



平出敏夫さん(匝瑳市)
旭市防災資料館管理人

防災資料館から震災の風化を防ぐ

旭市防災資料館の管理人になって、もうすぐ1年が経ちます。いつ起こるか分からない津波について学び、後世に伝えたいという思いから管理人になりました。

震災当時、私は匝瑳市の自宅にいたため、津波を直接見たり、経験したりしていません。防災資料館に展示されている写真や資料を見たり、市民などから当時の様子を聞いたりすることで、その悲惨な状況を知ることができました。

来館する人の中には旭市に津波が来たことを知らなかった人や、まだ生まれる前の出来事で知らない子どもたちもいます。地震はいつ起こるか分かりません。普段から備えておくことが必要です。防災資料館を訪れ被害の状況を知ることが、後の災害に備えるきっかけになってくれればと思います。悲劇を繰り返さないためにも、見学した人に地震や津波の恐ろしさを知ってもらい、その人が知り合いの人へさらに伝えてくれることで、震災が風化しないことを期待します。

旭市防災資料館

来館者数5,936人(令和元年度)

震災で津波の被害を受けた旧食彩の宿いおか荘(現しおさいホテル)に平成26年、市内の震災の記録を広く伝える施設として設置。令和2年2月に展示方法がリニューアルされ、市内の被害や避難状況の写真展示などのほか、来館者からの質問に管理人が答え、震災と復興状況を発信している。

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日以降の最初の平日)、祝日の翌日、12月29日～1月3日

開館時間／午前9時～午後5時

入館料／無料

〒旭市防災資料館(☎57-6712)



②



①



④



③



⑥



⑤

①しおさいホテル前に設置された津波想定標識 ②3.11の津波で被災し時を止めた忘れじの時計 ③市内各所の海拔を示す電柱標識 ④3.11の津波到達場所を示す石碑 ⑤飯岡の海岸近くに建立された3.11の津波を伝える石碑 ⑥元禄時代以降の度重なる津波の被害を記録に残す、平松浜区浅間神社の石碑

あとがき

震災からもうすぐ10年が経過しようとしている中、2月13日の深夜に発生した地震で、当時の記憶が脳裏をよぎった人も多いのではないだろうか。東日本大震災の余震は10年経った今も続き、気象庁のまとめでは有感地震は1万4、500回以上を数えています。また、首都直下地震の発生も懸念され、今後大規模な地震が発生する恐れがあります。

海に面した旭市は、度重なる地震や津波の被害を受けながらも、繰り返し復興を遂げてきた歴史があり、市内には、東日本大震災以前の津波に関する記録が石碑に残されています。この3月11日には震災から10年の節目を迎え、地震や津波の記録を後世に残すため、いいおかユー・ピアセンターの敷地内に、東日本大震災慰霊碑が設置されます。

津波避難訓練などに参加することや、津波の到達を伝える石碑と津波対策施設などの存在を知ることが、震災を振り返り、記憶を未来に伝えていく機会になればと思います。